

日本文
5885
9

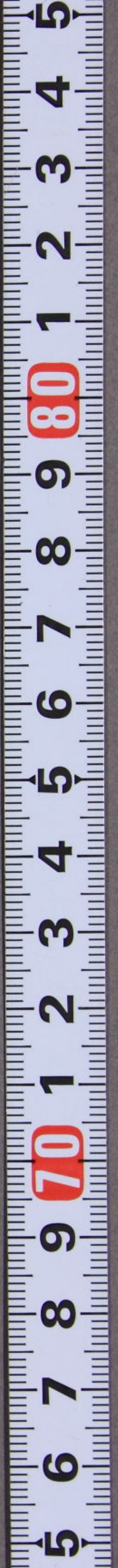
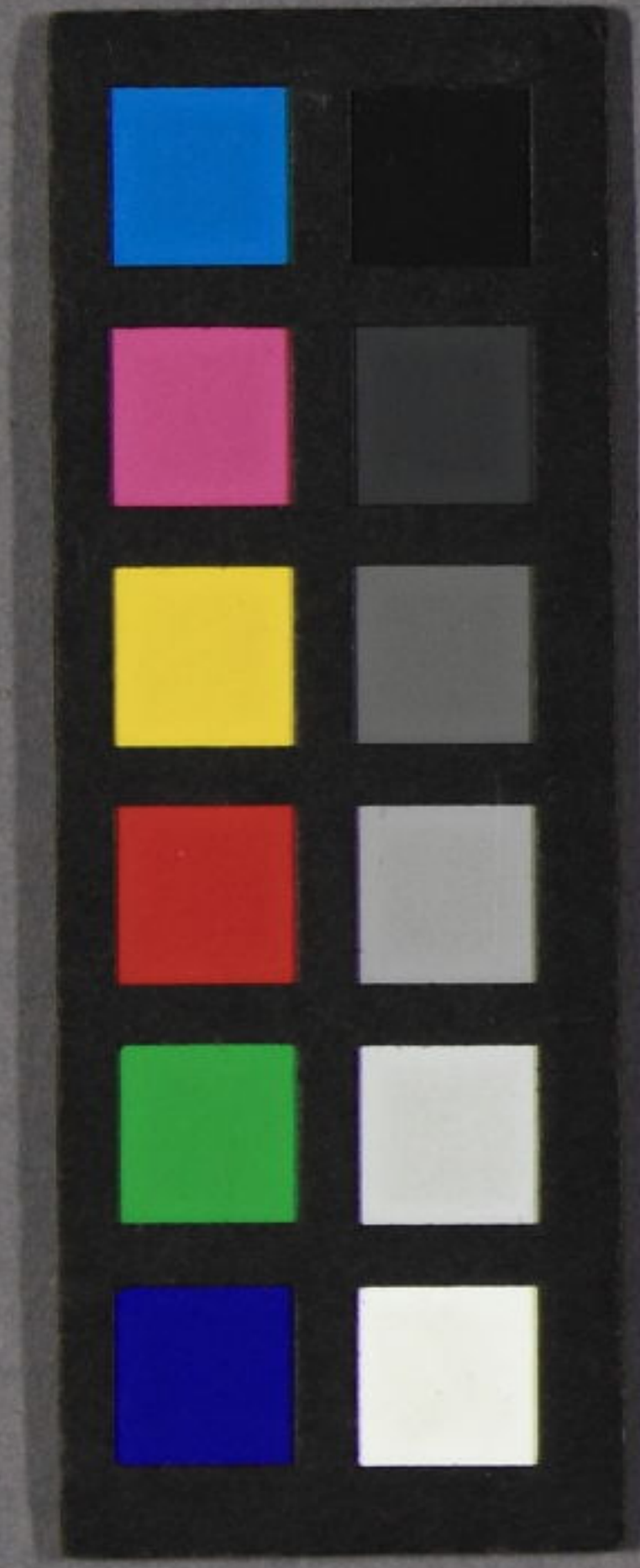
精環新報

*Enji
Hicida*

第九篇

定價一匁

九十三番ヴェンリード著



特
文庫10
7387
9

戦記

筆は蘇
文野一本

ま

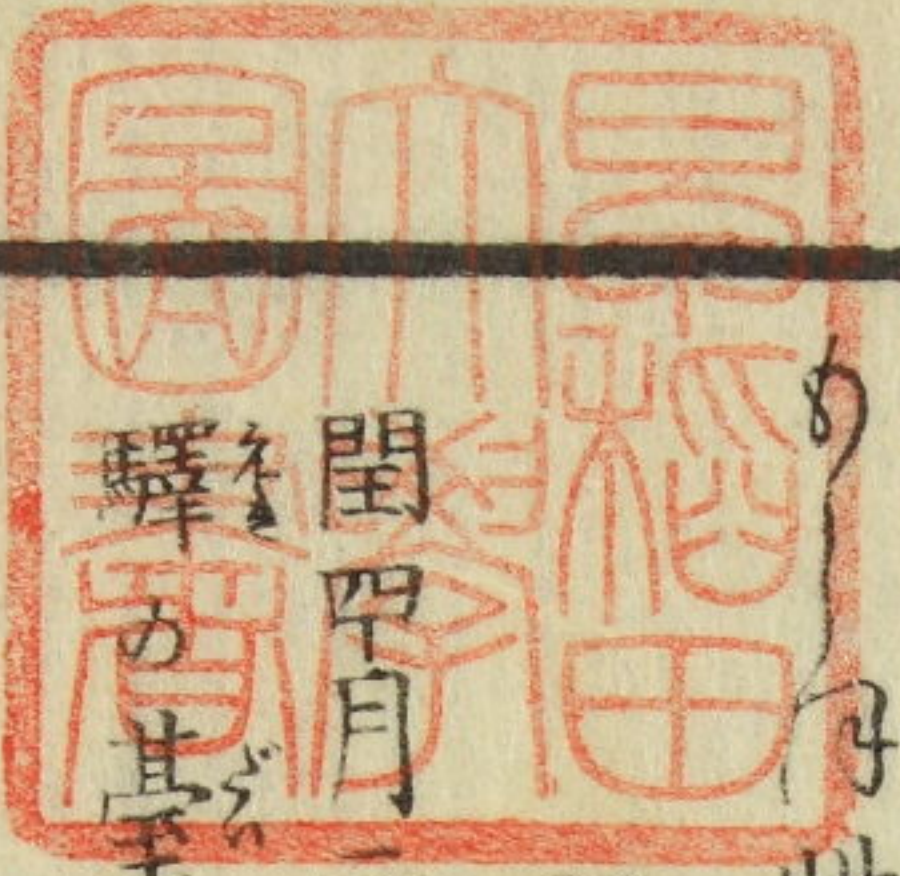
六十三番

羽州第九篇

慶應四年戊辰五月五日

西田文庫

羽州合戦之事



閏四月二日羽州庄内の浪人二千五百餘人あり同國仁田原
驛の基といふ處小陣取寒川江柴橋一人數をつらし
官軍より附置たる番兵を扱ひてさへひ舊領を取返し
翌三日溝延藏増邊を扱ひてせたりるに天童の城
主織田氏よりも人数を操りて最上川を隔て大小砲
と打合けるがそかくしきいささにもあらずりる處に
いづれの手よりや火矢をわけたりん窪目村より焼出
て溝延藏増邊一圓にともえたりけし火燄天に漲る

羽州九

赫々たること白晝の如し此勢に乗して酒井勢夜の
中なかの最上川さいじやうがはを抄しわたりつる四日の早夫にたぢあふ天
童城下ちやうじやうに亂入し城の前後たる町家まちやに火をこのあて
時の聲こゑをぶくとあげたりけるに城のわたり小城あり
人数にんずはすくなくたゞひとりもあつとまりて敵をふせ
がんとするものなく抄をすま子をすてく我われは
はとあちゆけりなり東風をげしこの空をわれを
猛火天もうかてんをそがらし黒煙地くろけんぢを抄ほふく抄をりしはあつと
いそんかきなり酒井勢の勝に乗てまをに城内ぢやうじやうに
まづれりなまは城主ぢやうしゆも今ハたまりえだ僅まじ十三騎じゆしきを

ひびくまき搦手なせよりあつびつでるに溝延より
引返ひきかへたる味方あじの勢にゆけあひく山縣さして抄あつた
けるに酒井勢三十騎をりして追驅おひされば織由方おひを
軍師ぐんしとたのまれり吉田木八あつとまり一人をふせき
たつあひあるがわたりをすし東山の方へあげぬるに
酒井勢の大將より敵をるぞあつたをそとてまはし
追掛おひかけも木八三四度も引返して血戦ちゆうせんし敵の首くび五迄
切て抄しあつたを打あつて抄あつたをいめまはし
かりける剛ごうの者ものあり此日の合戦くわせんに双方とらて抄あつた討死うちじ
ハ案外あんがいすくまかりあることとさるほどに酒井勢の四日の

夕刻ふ天童を乗取てそのつらほひ破竹のどろいせく
 此機會に乗トて山縣の城をも一搦ふとつせと重
 進たるその折節羽州弟上の俠客とみむれたる左澤小
 文治子分三百餘人を引連る酒井勢へぞ加はるらるれを
 五日の己の刻むりに酒井勢へ三千餘人天童の城外まで
 勢揃しそ隊伍をまらばらりつてやまごさうてぞ
 押しおせらる是を聞る北陸道の鎮撫使澤三位殿より
 御下知あき筑州の兵士百五十餘人をよび薩長の兵を
 ほろりてやまごこの危急をすくらさるれば城の四方に
 陣と張て嚴重にぞ固たりる是れ依て酒井勢へ城の

西手なる山よせに引退て陣取らるが七日の四ツ時むり
 に山縣勢なつび小諸州の援兵つづみ千三百餘人あて
 寒川江邊へりりて敵をあらんでひのころりわらる處
 山縣の俠客金兵衛留吉子分各七十餘人をひたつて
 押りしつ小出立鎗鉄砲をたがさる加勢あどまわり
 なるわくて其日のハツさがりより合戦はどまり雄
 いまど決せむらる處ふらるの故ともあはれ筑州あび
 薩長の兵あらるに陣掃しつ引退けま山縣の城主
 むのつらさまをえりおほいおどろき急に馬を下
 鬼をぬいで降参しつをけふの師ふ山縣の勢討死十

四人深手六人酒井勢ハ手疵只一人とどきこえしき
も酒井勢ハ勝に乗トて官軍の屯ぬる長泥といふ
ことろみあし一せ八日の早朝よりたつひなるごとく
も勝利のよし一庄内にこままりぬるこのあめども
よしを聞て羨ししくやあひひあん五百人をり脱走
しし此内みそ加ふる酒井勢ハますくいのちひさるん
ちりあればいざや上山に押し一せて下戦せんといふ
まらんを其用意をぞしたりなる

澤三位殿より御下知めく仙臺より三百五十人黒
田より二百人米澤より百五十人薩長より三百人を

上山へ援兵こししはつりされたる是にりて酒
井勢もつまご容易の攻入ざるめより猶其結末
をまらんと欲ばらの次に出版をるるべし

○ 閏四月二十六日八王子よりの來信

揖別後久不_レ来_レ候_レの弥御清適_ニ恭祝_ハ云々本月十日
夜徳川家脱走_ス士_々々々々々等甲府城取戻度心組_ス
農高打交_ハ人数五百人餘八王子寺驛へ到着仕_ハ武
器等携_ハ者無_レ之由兼る舊縁_ハ有_レ之_ニ付八王子千人隊
を_レ属_シ掛合_ス驛内_ニ禅院_{五ヶ}寺借受_テお成_ス右人数

止宿致日千人隊一掛合致居以先達也 王臣
 お屬以候之申是出有之以故後難之程も細計趣も
 兼允不仕以者も三四分も有之又徳川家一屬夜と中旗
 有之又脱走之致志之者も有之甚混乱に至以申
 内弥徳川家へ左胆之致てお極ゆる付 總督府へ申
 為千人隊長石坂弥次右衛門切腹致候由申以申
 專令戦て用意も已致候以脱走方武器等不足之付
 從來千人隊諸君之鉄砲五十挺お渡之且又軍用金二千
 両才覚致是出申の中由る驛吏共周旋致居申
 九ツ時頃尾州兵士四十人計日野驛へ陣取以之付脱

走方并千人隊急速人数操出之既戦争之不及之場
 多賀上總介出張る利害得失委細説破致候遂之和
 議お成廿二日九時頃脱走方人数追て江戸表へ引取
 お成申諸方も右様之事件多有之不安心之世
 中申候今横濱表形勢如何申候意木利國より
 蚕種紙商人多渡来仕由當年ハ外國人引取直段太約
 如何程位申候迄申候ハ王子近在ハ大概七八分夏
 蠶之種子お成の品も甚稀少申候春蚕も昨今繭お
 成申此商人蠶連紙前取引本部百枚付二百五十両以
 上申候先ハ任鳴便近況申候後草々如好申候頃首

閏四月二十四日

某姓某名

○
 高力主計頭といふ人江戸の乱を避てその妻を上野のた
 ちる知行所へ逃るゝおれなるがころ夏ふたりはれが
 ちるのきりのを妻のたへあつるをく葛籠にいきて牛
 込のたをより船のせく出るに武士二人入來て
 船中の荷物らむひとりてさりけるを市中の者あるま
 て竹鎗もてそのぬすびと二人をつれころり

○
 先日相州真鶴へ上陸せし江戸脱走の士を遊撃

隊なるよりその内おもてあたる人の林肥後守の
 子林昌之助といふ人あく人数二百十人尾州へ攻めん
 この心組はく沼津をらほりるを城主水野出羽守が
 あれをさへおさく總督府へ此よりをさうられる
 に其方にあづけおくるありはま甲州の黒駒村
 とひ處ふとりのせあきり

○
 らのころ前内府殿 天朝の御疑念をれて瀧城より
 かつせまの風聞ありそれにつれ三條殿勅使を下
 たちふのより諸侯より白寛表さげしめのもおほ

八ノヤ
二ノ

このりな色バ内府殿ニ心なつきこと
なるべし

天意ふつうせし

○

閏四月二十七日外國事務總督東久世殿よりびに判
事寺島氏江戸へ押のむのれし是の築地の外國人
居留地を受取ふゆの途しなるべし

○

九條殿勅使としを陸奥へ下たすひしがそのごり汗
戸へいせらるるづきの風聞あり

8
F
4
天

六

西垣文庫 
文庫 10
7387
9